

## 政務活動費調査研究報告書

会派名 新生・市民クラブ

氏名 大塚正俊

日 程	令和 5 年 10 月 18 日（水）午前 10 時～11 時 30 分
場 所	兵庫県南但クリーンセンター
相 手 方	南但広域行政事務組合環境課；下村課長
参加議員 氏 名	大塚正俊、千木良孝之、須賀要子、木佐貫佳子
目 的	南但クリーンセンターの生ごみ機械分別やメタン発酵、発電設備等について現地調査を行い、生ごみ処理やエネルギーの利活用のあり方を探る。
内 容	<p>■南但広域行政事務組合は、兵庫県朝来（あさご）市（行政面積 403.06 km<sup>2</sup>、人口 28,811 人）、養父（やぶ）市（行政面積 422.91 km<sup>2</sup>、人口 22,058 人）の 2 市が設立している一部事務組合で、ごみ処理や消防などを共同処理しています。</p> <p>■高効率原燃料回収施設の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置場所 兵庫県朝来市和田山町高田 8 1 7 - 1</li> <li>・供用開始 平成 25 年 4 月</li> <li>・熱回収設備（焼却設備） 処理能力：43 t / 日 × 1 系列 形式：ストーカ炉</li> <li>・バイオマス設備（メタン発酵設備、発電設備） 処理能力：36 t / 日 × 1 系列（前処理設備入口にて） 形式：高温乾式メタン発酵 発電能力：191 k w × 2 基 発電方式：ガスエンジン発電機</li> </ul> <p>※生ごみや汚れた紙類などはすべて機械分別され、メタン発酵設備によりガス化させることにより、焼却量を削減しています。（約 10%削減＝燃やすごみ中の生ごみ等（30%）は 100%分離されませんが、発酵汚泥が約 20%発生し焼却するため。）</p> <p>■視察概要</p> <p>1. 生ごみ機械分別の取り組みについて</p> <p>①生ごみの分別収集ではなく、混合収集で機械選別を選定した</p>

	<p>理由。</p> <p>②破壊装置、破壊選別装置の故障は、オーバーホールの期間</p> <p>2. メタンガス化施設について</p> <p>①メタンガスの発生量と発電量は、</p> <p>②発電した電気の自家消費量と売電量は、</p> <p>③悪臭に対する苦情と脱臭設備の仕様は、</p> <p>3. 建設に至る経過について</p> <p>①広域処理を決定した経緯</p> <p>②処理場の建設場所の選定理由は</p> <p>③全体建設費とバイオマス設備、熱回収設備、リサイクルセンターの各建設費</p> <p>④焼却炉の熱エネルギーを活用した発電設備を設置しなかった理由は、</p> <p>⑤リサイクルセンターで選別した資源ごみの納入先と処分・売却単価は、</p> <p>■<a href="#">クリーンセンターの説明資料（別紙参照）</a></p>
<p>成 果</p>	<p>朝来市と養父市では、生ごみの戸別収集や生ごみキエーロ等の取り組みは実施していません。新たな生ごみ分別は難しいため、燃えるゴミと一緒に収集して工場で機械分別を実施しています。</p> <p>生ごみは燃えるごみの中から100%機械分別され、メタン発酵によるメタンガス発電で売却しています。しかし、メタン発酵した後には汚泥が発生し、焼却処分をしているため約10%の減量効果しかありません。</p> <p>メタン発酵した後の汚泥を液肥やたい肥として利活用できれば燃えるゴミは30%以上減量可能となります。</p> <p>中津市の清掃工場の建て替えにあたって、工場の建設コストと液肥等の需要を勘案して、最適な生ごみ処理システムを構築できればと考えます。</p>